

新ごみ処理施設整備事業に係る生活環境影響調査 調査結果を報告します

現在、伊豆市伊豆の国市廃棄物処理施設組合では、2022（平成34）年4月稼働に向けて、伊豆市佐野地区での新ごみ処理施設の整備を進めています。新ごみ処理施設の整備に際し、廃棄物処理法に基づいて「生活環境影響調査」を実施したため、その結果を報告します。

●生活環境影響調査とは

生活環境影響調査とは、ごみ処理施設を設置する前に行う調査で、施設整備に伴う生活環境への影響について、予測、分析（評価）を行うものです。この調査により周辺の生活環境が守られることを確認し、稼働後もこれが維持できるよう、施設の整備および運営を行っていきます。

●調査内容



項目	予測結果	環境保全目標	評価	調査結果番号
二酸化硫黄 (ppm)	0.0015	0.04	○	①大気質
二酸化窒素 (ppm)	0.0101	0.04	○	
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0326	0.1	○	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0107	0.6	○	
生物化学的酸素要求量 (mg/L)	0.5	1	○	⑤水質
浮遊物質 (mg/L)	1	25	○	
温室効果ガス削減率 (%)	20.6	8.6 以上	○	⑪地球環境

●用語解説

環境保全目標

国や県などの環境基準などを考慮して設定する目標で、生活環境を保全するための望ましい水準のこと。

浮遊粒子状物質 (SPM)

大気中に浮遊する粒径が10μm以下の粒子状物質。大気汚染の指標として用いられる。

生物化学的酸素要求量 (BOD)

水中の有機物が好気性微生物の生物化学的反応によって分解される時に消費される酸素量のこと。一般的な水質指標のひとつ。数値が大きいほど水質が悪いことを示す。

浮遊物質 (SS)

水中に浮遊または分散している粒子状物質。数値が大きいほど水の濁りが多いことを示す。

報告します！



●調査結果（13項目）

①大気質

煙突から出る排出ガスの拡散シミュレーションの結果、国が定めた環境基準を大きく下回りました。



も環境保全目標を満足する結果となりました。

④悪臭

臭いの漏えい対策を行った施設における拡散シミュレーションの結果、周辺地域では、ごみの臭いを感知できない水準でした。

⑤水質

狩野川の水質への影響を予測した結果、環境保全目標を満足する結果となりました。



⑥低周波音

低周波音が発生するおそれのある設備機器は、極力建物内部に設置するなどの対策により、環境保全目標を満足する結果となりました。

⑦土壌汚染

施設基本計画における排水の自主基準を遵守することにより、環境保全目標を満足する結果となりました。

⑧動物

建設地内には貴重な昆虫は生息しておらず、貴重な鳥類についても営巣や餌場としての利用はないため、影響はないと予測されました。



⑨植物

建設地内には貴重な植物は生育しておらず、影響はないと予測されました。

⑩景観

地域の景観と調和した違和感のない施設とするため、建物の外観は派手な色彩を避けるなどの工夫が必要とされました。

⑪地球環境

新施設ではごみの焼却熱を利用して発電を行うことから、現在伊豆市、伊豆の国市にあるそれぞれ2つの焼却施設よりも、温室効果ガスの排出量が削減できます。そのため、地球温暖化対策に貢献できると考えられます。



⑫日照障害

建設地周辺の水田では、稲作の時期に新施設による日陰が長時間かかることはない予測されました。また周辺の住居には、日影はかからない結果となりました。



⑬電波障害

新施設完成後、ごく一部の範囲で電波障害(TV)が起きる可能性があると予測されました。そのため、建設計画の中で具体的な検討を行い、必要な対策を講じていきます。



●事後調査について

調査の結果、地域の生活環境に与える影響は軽微であるとの結論を得ました。今後は、施設稼働後も影響がないかを確認するため、事後調査を行ってまいります。また、事後調査の結果、施設稼働により、生活環境への影響が生じている場合は、すぐに対処します。

●調査結果説明会

とき 1月22日(月) 19時から

ところ あやめ会館2階会議室

とき 1月23日(火) 19時から

ところ 生きいきプラザ第1、2会議室(伊豆市小立野)

●調査書の公告縦覧

とき 1月25日(木)まで

8時30分～17時15分

(土日祝日を除く)

ところ 伊豆市伊豆の国市廃棄物処理施設組合(伊豆市役所中伊豆支所)

●伊豆市環境衛生課(伊豆市役所本庁、各支所窓口)

②伊豆の国市管財官繕課(伊豆長岡庁舎、各支所窓口)

意見の受付 2月8日(木)まで